



特集

健康長寿科学の拠点としての歩み

News & Topics

- 学生と教職員の語らい「はばたきカフェ」
- 花王との共同研究講座を開設

連載

研究室訪問

- 経営情報学部 岩崎ゼミナール

活躍する卒業生

- 薬学部 / 大学院薬食生命科学総合学府

産学民官連携

- “産・学・民・官”の連携を考えるつどい

図書館だより

- シリーズ 私の一冊の本



食と健康を科学し、持続可能社会へ貢献する 健康長寿科学の拠点としての歩み



■ 科研費「食生活学分野」第1位獲得

文部科学省が平成26年10月10日に発表した、科学研究費補助金の研究分野別ランキング（過去5年の新規採択の累計数の上位10機関）において、本学が「食生活学分野」で1位を獲得しました。

この背景にある、本学がこれまで行ってきた「食と健康」「薬食同源」といった健康長寿社会の実現に向けた研究の歩みを振り返ります。

■ “科研費”とは？

科学研究費とは、大学や研究機関の研究者、研究グループの科学研究を国が支援するための補助金で、人文社会科学から自然科学まで全分野の学術研究を支える制度です。2014年度は10万462件の応募があり、

2万6,714件が新規採択されました。本学は先に挙げた食生活学分野のほか、6つの分野でトップ10入りを果たしました。

細目別採択件数上位10機関（過去5年の新規採択の累計数）
研究分野「食生活学」（文部科学省「平成26年度科研費（補助金分・基金分）の配分について」より）

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数	うち女性
1	公立大学	静岡県立大学	37.0	10.0
2	国立大学	徳島大学	35.5	15.5
3	特殊法人・独立行政法人	(独)農業・食品産業技術総合研究機構	23.0	8.0
4	国立大学	お茶の水女子大学	21.0	16.0
5	国立大学	奈良女子大学	20.0	10.0
6	特殊法人・独立行政法人	(独)国立健康・栄養研究所	17.0	8.0
7	私立大学	武庫川女子大学	16.0	10.0
8	国立大学	東京大学	14.5	10.0
9	公立大学	大阪府立大学	13.0	6.0
10	公立大学	京都府立大学	12.5	6.0

食生活学分野のほか6分野で本学がトップ10入り

*2分野にわたる採択は、0.5とカウント

- 環境・衛生系薬学…2位
- 物理系薬学…4位
- 環境リスク制御・評価…5位
- グリーン・環境化学…6位
- ケミカルバイオロジー…7位
- 国際法学…10位

■ 採択された研究内容

研究分野別ランキングにおいて本学が1位となった「食生活学分野」の研究として、助成金額から見ても若手研究者の貢献が目立ちます。静岡県が日本一の生産高を誇る「茶」を題材にして、「茶ポリフェノールの渋味発現機構の解明（石井剛志助教）。飽食文化と超高齢化を迎えた日本社会が必要とする「腸管内自然炎症を制御するメタボリック症候群新規診断法開発の探索的基

盤研究（三好規之助教）。我々が摂取する蛋白質は、消化され「ペプチド」やアミノ酸になりますが、この分野の研究に光明を当てる「ペプチド栄養の根幹『生体吸収スペクトル』の完全解明（伊藤圭祐助教）」を特記します。

文責：大学院食品栄養環境研究院長 小林裕和



■ 食品栄養科学の理念

本学における「食と健康の科学」の研究は、1987年の開学と同時に「食品栄養科学部」の創設から始まりました。食品栄養科学部は、人の生命現象に深く関わりを持ち、食品科学と栄養科学を連携させた「食と健康」の学問を幅広い分野から探究する学際的な教育・研究を行う新しいタイプの学部として、日本で初めて創設されました。

星猛初代学部長（本学第2代学長、現：名誉教授）が、食物という物質面の学問として発展してきた食品科学、生体内に入った食物の代謝や生体機能との関係を扱う栄養科学を密接に関連させながら、農学や理学、医学、保健学、薬学といった分野と総合的に学ぶ必要性を説き、学際的な教育・研究体制の確立に力を注ぎました。



星初代学部長が提唱した「食品栄養科学の理念」



食品栄養科学部棟1階にある、食品栄養科学部創設の碑

総合的に食と健康の問題を追求すること、健康の問題は holistic*であるため、広い学問分野で支えられる必要があること。両学科間の総合関係はできる丈密にすること、食品産業は静岡県では重要な分野である為に食品の名もいれるべきであること、等を考え学部名を食品栄養科学部とし、広い学科の学問支えられるという意味で英語では School of Food and Nutritional Sciences と複数形で表示することとした。—初代学部長 星猛「創立10周年に寄せて」より

*holistic: 全体論的な、意

■ 「食と健康の科学」の重要性と関心の高まり

食品栄養科学は、私たちを取り巻く社会情勢や課題とともに重要性が高まっています。2013年には、「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコの無形文化遺産に登録され、世界から日本の食文化への関心が集まっています。一方で、世界的な異常気象や食糧枯渇、超高齢社会による高齢者人口の増加、国民医療費負担の増加、相次ぐ食品偽造などの事件による食品の安全性の問題、といった諸問題が山積しています。こうし

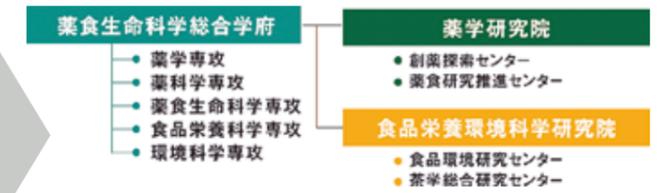
た様々な社会的背景を考えると、食品栄養科学による社会貢献は一層強化されるべきものとなっているといえます。

特に、単に長生きをするだけでなく、いかに「健康寿命」（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）を伸ばすかが大きな課題となっており、「未病」あるいは「予防」への発想の転換と、健康長寿社会の実現が望まれています。

■ 健康長寿科学の研究拠点と学際融合領域「薬食生命科学」の体系化



本学はこのような社会情勢を予見し、薬学と食品栄養科学の連携は、健康長寿の実現に必要な不可欠な要素であると考え、「薬食同源」「食薬融合」を共通認識として、「薬食生命科学」という学際融合領域の学問の体系化を試みてきました。当時の薬学研究院（現：薬学研究院）と生活健康科学研究科（現：食品栄養環境科学研究院）が連携し、木苗直秀研究科長（現：本学学長）を中心にして、文部科学省の21世紀COEプログラム（平成14年～18年度）、グローバルCOEプログラム（平成19年～23年度）に応募しました。これらが採択（交付金：総額18.7億円）されたことにより基盤が整備され、「健康長寿科学」の推進に重要な役割を果たしてきました。



薬食生命科学総合学府組織図

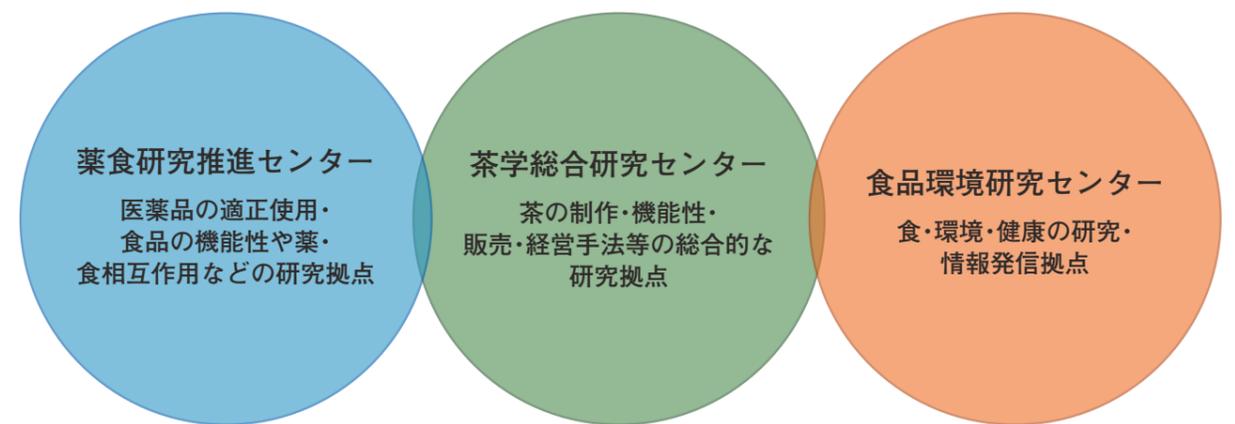
さらに、今まで隣接した領域にありながら、知識・技術の同時習得が困難であった双方の理念と方法論を習得し技術を活用できる高度な専門職業人と研究者を育成するため、2012年度には、大学院薬学研究科と生活健康科学研究科における教育を統合し、公立大学として初めての試みとなる「薬食生命科学総合学府」を開設しました。

食品栄養科学や薬学・薬科学や環境科学などの2006年度以降の研究業績は、世界最大級の学術情報文献のデータベースを構築・提供する機関トムソン・ロイターの論文引用度指数の農学分野において、全国第1位の評価を受けるに至っています。（「大学ランキング2013」及び「大学ランキング2014」、朝日新聞出版）

■ 地域を志向した研究拠点の強化

2014年には、大学院の附置センターとして「薬食研究推進センター」「茶学総合研究センター」「食品環境研究センター」の3つの研究拠点を立ち上げました。これまでの健康長寿科学研究の深化を図るとともに、茶

業界、食品会社や製薬会社等の地域企業、公設試験研究機関といった、産業界・行政機関との強固な連携体制を構築し、地域貢献をめざした研究を行っています。



大学祭を開催しました

平成 26 年 11 月 1 日、2 日にわたり、谷田キャンパスでは第 28 回剣祭を、翌週の 11 月 8 日、9 日には小鹿キャンパスで、短期大学の第 18 回橘花祭を開催しました。

第 28 回剣祭実行委員長

坂本 卓也（経営情報学部 3 年）

2 日間にわたり開催された第 28 回剣祭は、両日とも天候の優れない中での開催となりましたが、県大の学生、教職員の方々をはじめとする多くの方々のご協力のおかげで無事開催することができました。悪天候にもかかわらず、剣祭当日は多くの来場者でにぎわいました。

数多くの模擬店、県大スターコンテスト、K-1（カラオケコンテスト）、後夜祭には国際関係学部棟に入りきれないほどの人。看護学部棟には、お化け屋敷の長蛇の列。モニュメント下には、各団体のパフォーマンスを楽しむ人。休憩所、模擬授業、フリーマーケットにも学内外問わずさまざまな方々に足を運んでいただきました。

28 回目を迎えた今回の剣祭も、たくさんの方々の協力のもと無事終わることができました。テーマである「煌（きらめき）」のもとに実行委員会の皆はもちろんのこと、県大生、地域の方々と剣祭を通して深く関わり、楽しめたことは私の学生生活での一番の思い出です。



学生参加イベント「県大スターコンテスト」



模擬店と人でにぎわう正面玄関

橘花祭実行委員長

鈴木 真奈（短期大学部 2 年）

今年度の橘花祭は、「環（わ）」というテーマのもと開催されました。2 日目はあいにくの雨で模擬店は館内でのみの開催となったため、テントの移動等、新たに会場の設営をしなければなりませんでした。テーマにふさわしく皆で協力して準備し、1 日目とはまた違った雰囲気となりました。実行委員長として不十分な点が多々ありましたが、実行委員のメンバーや学生会、その他関係者の方々の協力により、無事開催でき、成功に終わったこと、心から感謝しています。

今年の橘花祭では軽音バンド演奏、吹奏楽サークルによる演奏、カラオケ大会、女装・男装コンテスト、早食い、ミス県短等を企画しました。どれも大変盛り上がり、会場は笑顔で溢れていました。また、学科展示では、県短の各学科、専攻の専門性と特徴を来場者に知っていただくとともに、企画した学生自身も自分たちの学びを振り返る機会となったと思います。

あらためまして、橘花祭へ足を運んでくださった方々、実行委員、その他準備から片付けまで協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。



社会福祉学科の展示



模擬店風景

交換留学フェアを開催

海外留学・国際交流に関心のある学生を対象とした交換留学フェアを、平成 26 年 10 月 28 日に開催しました。

本学では、海外の 5 大学と大学間協定に基づき長期交換留学を実施しています。実際に交換留学に参加した学生に体験談を話してもらうことで、関心のある学生が制度を積極的に活用して、海外留学、国際交流が促進されることを目的として企画されました。

フェアでは、交換留学参加学生による各協定校の紹介、大学毎の個別相談、懇親会を行い、大学間協定校であるボアジチ大学（トルコ）からの留学生を含む約 70 名の学生が参加しました。参加した学生は、大学や留学先での生活等について積極的に質問し、留学に関する疑問や不安を解消している様子でした。また、派遣人数を増やしてほしい等の要望が寄せられました。

<本学の長期交換留学協定校>

リール政治学院（フランス）、ボアジチ大学（トルコ）、ブレーメン州立経済工科大学（ドイツ）、モスクワ国立国際関係大学（ロシア）、フィリピン大学（フィリピン）



交換留学制度について説明を聞く学生たち

はばたきカフェ 学コン 新成人の集い ～これからの静岡を担う仲間と出会う、 地域と出会う～を開催

平成 27 年 1 月 22 日、学生有志企画によるキャンパス・フリートーク「はばたきカフェ」を開催しました。「学コン 新成人の集い～これからの静岡を担う仲間と出会う、地域と出会う～」と題して地域をテーマに、新成人 40 名、新成人を祝う学生 21 名が、5 名ずつのグループに分かれ、静岡や大学に求めることについて話題を変えながら語り合いました。

また、今回ののはばたきカフェは新成人を祝う場でもあり、ジャズダンス部のパフォーマンスや木苗学長から新成人への祝辞と記念品が贈呈されるなど、参加者が成人を迎えた学生を囲んで祝いました。

はばたきカフェは、木苗学長の発案で平成 22 年度から開催しているもので、学生と教職員が、お茶とお菓子を摘みながら気軽にフリートークをし、参加者がリラックスした雰囲気の中で意見交換を行うことで、より住みやすい大学にしていこうと目指しています。



テーマについて意見を交わし交流を深める学生たち



新成人のみなさん、おめでとうございます！

花王株式会社と産学連携講座を設立 茶カテキンを含むポリフェノール研究の 拠点を目指す

本学と花王株式会社は、新たに産学連携講座を設立し、お茶に含まれるカテキンなどポリフェノール類の効能について共同研究を開始することとなりました。本講座は、ポリフェノール類の肥満やメタボリックシンドロームに対する作用や、老化に伴う筋肉や脳機能の低下に対する有効性を明らかにすることを目的としています。本学がこれまで培ってきた生活習慣病や老化予防に対する緑茶の効能についての研究実績と、特定保健用食品(トクホ)の「ヘルシア緑茶」を開発した花王の茶カテキンによる体脂肪低減効果解明の研究実績とを共有することにより、新たな機能性食品の開発への貢献や、生活習慣病の発症予防や筋肉・脳の老化に伴う機能低下の解明等が期待できます。

共同研究の期間は3年間を予定しており、研究費は花王が負担し、薬学部と食品栄養科学部の教員5名が、花王の研究員とともに研究に当たります。



講座開設の合同記者会見の様子
(左中央:木苗直秀学長、右中央:武馬吉則花王(株)常務執行役員)

韓国・大邱保健大学海外研修報告会を開催 (短期大学部)

短期大学部では、昨年3月の韓国・大邱保健大学との大学間交流協定の締結を受け、7月28日から8月9日にかけての約2週間、海外研修として社会福祉学科の学生3名を初めて同大学に派遣し、研修に参加した学生による報告会を12月4日に開催しました。3名は研修期間中の様々な実習体験、異文化交流から、自らが学んだことや感じたことを発表し、報告会に参加し

た約70名の学生・教職員が韓国及び協定校への理解を深めました。



海外研修に参加した社会福祉学科の学生3名

遊育支援クリスマスワークショップ開催報告

平成26年12月6日短期大学部体育館において、NHK歳末たすけあい助成事業として、短期大学部社会人専門講座ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)養成講座を修了したHPSによる遊育支援クリスマスワークショップが開催されました。

HPSは、遊びを使って病気や障がいのある子どもを支援する専門職です。

当日は短期大学部社会福祉学科の2年生3名も参加しました。参加者の岩立佐那さんと中田百合子さんは「いつも障がいを持ったお子さんと関わることはないのととても貴重な体験で楽しかった」「短い時間の中でも遊びを通して子どもたちの笑顔をたくさん見ることができてよかった」と感想を述べました。

また、8月の遊育支援ワークショップ with SMA(脊髄性筋萎縮症)家族の会にも参加し、今回2回目のブース出展となった小山麻莉さんは「前回に比べて子どもたちと自然に会話を交わすことができよかった。障がいの有無や、大人と子どもといった年齢などにかかわらずたくさんの人が楽しんでいる姿を見て、遊びの力の大きさを改めて感じる事ができた」と振り返りました。また、実際に活躍するHPSの方々や交流できたことや同級生と参加できたことに触れ、「いい学びになった。前は1人だったけれど、今回は岩立さんと中田さんが参加してくれて嬉しい。このような活動がもっと広まってほしい」と小山さん自身もワークショップが学びの機会となったことを話してくれました。



岩立さん、中田さん、小山さんらと遊びに参加する子どもたち

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 静岡 雨のち晴れルヤ!

平成26年9月27日、28日、がん患者・家族支援チャリティイベント『リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 静岡』が本学との共催のもと芝生園地で開催されました。昨年に続き2回目の開催となった今年は、32チームが参加し、113人のサバイバー(がん患者)、100人を超す、本学関係者を含め総勢1500人が集いました。

実行委員長

若林 敬二(食品栄養環境科学研究所 特任教授)

一般の方々、医療従事者、大学職員、大学生、サバイバー、準備を重ねてきた皆の願いが天に届いた様に、昨年の大会とは打って変わり、会場の芝生園地は空いっぱいの青さと、緑の芝生に包まれ、赤レンガの大学校舎と芝生の上に咲いた40もの華やかなテントが見事なコントラストを映し出しました。

オープニングは大学の近隣にある有度幼稚園の園児による元気な踊りと歌でスタートし、ミニヘリコプターによる空中からの参加者の集合写真が撮影されました。日本対がん協会の垣添忠生会長、大会委員長を務める木苗学長の開会の挨拶に続き、本学看護学部生による選手宣誓が行われました。開会式後には、サバイバーだけが歩くことのできる特別な時間としてサバイバーズラップが始まりました。柔らかな芝生の上を気持ちよさそうに歩く様子を、スタッフ、学生ボランティア、当日参加者、さらには園児らも、大きな拍手で祝いました。

そしていよいよ、参加チームの紹介が行われ、笑顔いっぱいのリレーウォークが開始しました。リレーウォーク中は、チームテント内で趣向を凝らした楽しい催しや募金活動が行われました。

夜通して歩き続ける本イベントは、夕方になると、多くの思いが綴られた1000を超えるルミナリエに灯が灯り始めました。ステージ上では、参加各チームの代表者一人ひとりが詩を朗読し、天国に旅立った仲間を偲びました。静かになった夜には、チームテントの中で参加者同士が語り合い、リレーをつなぐ人々がゆったりと歩き続けました。

翌日の日曜日にも快晴に恵まれ、気持ちの良い朝を迎えました。朝の体操、ストレッチを行い、朝の散歩を日課としている近隣の方々も会場に集いました。予定していたステージ上のイベントも計画どおりに進み、最後の一周は参加者全員で歩き、12時に閉会式を迎え、無事2日間の日程を終了しました。閉会式に集まった人々の顔には、楽しく充実した喜びが溢れ、来年もまたこの場所に集おうと決意の雰囲気に包まれていました。



参加者の思いが込められたルミナリエ



芝生園地の上空から撮影した集合写真

学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。

部活・サークルの受賞についてはP16の受賞一覧をご覧ください。

民主主義を語る「デモクラシーカフェ」

国際関係学部の津富宏教授のゼミ生の活動から生まれた模擬政党「静岡わかもの党」が、昨年10月から複数回にわたり、「民主主義」をテーマにした北欧発の市民参加型の意見交換会「デモクラシーカフェ」を企画開催しました。

静岡わかもの党 岡本智之(国際関係学部4年)

若者が政治に関わる機会を作りたいという思いから今年始まったデモクラシーカフェは、毎回「デモクラシーとは何か」ということについて若者と政治家がざっばらんに意見を交換する場です。「政治について話すのは難しいのではないか」という声をよく聞きますが、実際に参加してみると思いのほか簡単で楽しく、また充実した時間を過ごすことができたという声をいただきます。私自身、この活動を始めるまではさほど政治や社会に興味はありませんでしたが、この活動を通じて日々の生活の中で政治に触れることや自分ごととして考えていくことの重要性を感じました。静岡わかもの党では、今後も政治に気軽に接す

ることができる機会を作ることを通じて、若者の思いを社会に届けていきたいと思っています。



福島の子どものための被災地支援

国際関係学部の米山桃子さんは、大学を休学し、東日本大震災の被害を受けた福島県郡山市に移り住み、1年半にわたってNPO法人の有償スタッフとして被災地の子どもたちを支援するなどの活動を経験しました。

米山桃子(国際関係学部3年)

私が福島に行くきっかけとなったのは、代々木にある国立オリンピックセンター主催の「リフレッシュ・キャンプ」という福島の親子を対象としたキャンプで、あるお父さんが言った「福島のことを忘れないで欲しい」という言葉です。もともと、休学して何かしたいという漠然とした思いもあり、福島に移り住み、現状を目で感じようと決心をしました。

福島で一番心に残った活動は、NPO法人移動保育プロジェクトが開催している「ポックア」という、未就学児を対象にした日帰り遠足の引率スタッフです。これは、放射線量の比較的低い地域に遠足に行き、自然を感じながら思いっきり外遊びをしようというものです。子どもと直接ふれあうことで、一層福島の子どものための思いが大きくなりました。その他にも、福島で活動しているさまざまな方々と交流することで、人脈や視野

が広がり、それは私にとってかけがえのない財産だと思っています。今後も福島でお世話になった方々とのつながりを大切にしていきたいと思っています。



国際関係学部発、ゲーム研究室「ゲームラボ」活動報告

ゲームラボ一同

●ゲームラボ(Game Lab)とは?

ゲームラボは、国際関係学部ディハーン准教授が指導する、1~4年生が参加するゲーム研究室です。ゲームを通してビジネスや教育の知識・技能を学んでいます。ラボでは、5つのプロジェクト: Childrens Hospital Project, Creativity Project, Collaboration Project, Jidokan Project, Playtesting Projectが進行中です。これまで、児童館や小児病院などでのゲームの企画を通して、ゲームがもたらす社会的、教育的効果を調査したり、企業と協力してゲームデザインワークショップ等のイベントを開催してきました。



●ゲームをとoshした地域の子どもたちとの交流

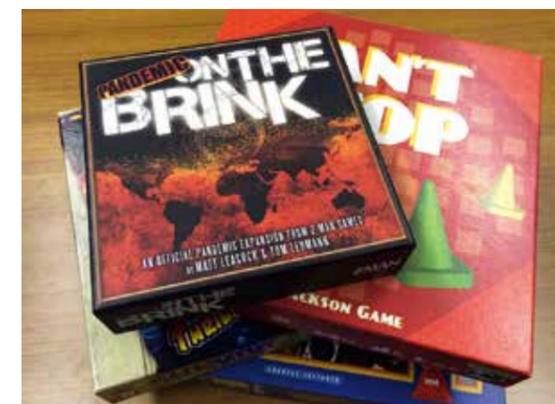


プロジェクトの一つである「児童館プロジェクト(Jidokan Project)」では、メンバーがボランティアで、毎月第2土曜日に草薙児童館の子どもたちにゲームを教えています。プロジェクトでは限られた時間の中でゲームをわかりやすく説明する必要があり、事前の準備が大切です。メンバーは、ゲームのルール、流れをあらかじめ勉強し、図解を用いたルールの用意や、ルールの変更を適宜行うなどの工夫をしています。活動を通して、私たちは子どもたちの学習・成長を見ることができました。子どもたちはゲームを理解し、戦略を考え、大人と対等に遊ぶことができます。そして新たな発想でもって、私たちを驚かせてくれます。年齢の異なる子どもたちが協力し、想像力を働かせ、自ら考え行動している姿を見るのは素晴らしいことです。

●所属する学生の卒業研究

私たちは、ラボの活動を通して得た経験を自身の卒業研究にも生かしています。

竹原しほ子さんは、ゲームがストレスを軽減するという調査結果に基づき、小児患者のストレスを減少するために効果的なゲームのチェックリストの研究を行いました。また、土佐谷早織さんはカードゲームを用いて、ゲームが子どもたちの英語学習の促進をもたらすのか調査する研究を、渡部里夢さんは、学生に卒業後どのように社会に参加・貢献するのかを考えるよう促す協力型ボードゲームを用いた研究をそれぞれ行いました。私たちは、革新的な研究、イベントをこれからも実施していきたいと思っています。



○Game Labホームページ <https://sites.google.com/site/gamelabshizuoka/>

はばたき寄金からのお知らせ

「第2回県大生・県大教職員の創造力コンテスト」、「第18回学生文芸コンクール」の開催

剣祭2日目の平成26年11月2日に、はばたき寄金主催の「第2回県大生・県大教職員の創造力コンテスト」と「第18回学生文芸コンクール」の表彰式が行われました。県大生・県大教職員の創造力コンテストには3件のエントリーがあり、当日スピーチも行われました。学生文芸コンクールのノンフィクションは8篇、詩は15点、俳句は13人から70句、イラストは10点、写真は21点の応募がありました。



表彰式後、学長を交えて



優秀作品の展示(はばたき棟1階ロビー)



創造力コンテストの審査

第2回県大生・県大教職員の創造力コンテスト受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名
創造力コンテスト	優秀賞	丹羽 康夫	食品栄養科学部	使って便利、食べて美味しく健康な食堂を目指してコムダス
	佳作	高柳 由莉 他4名	経営情報学部	Snow café
	努力賞	磯部 まゆみ	事務局出納室	上食ムスリム・フレンドリーキッチン改善案

第18回学生文芸コンクール受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名	
ノンフィクション	努力賞	角田 彩乃	国際関係学部	静岡県と核の記憶	
	努力賞	岩田彩友美	看護学部	対峙	
詩	優秀賞	萩野 翔子	国際関係学部	Fall	
	努力賞	山梨 智也	薬食生命科学総合学府	日常	
俳句	最優秀賞	岩田彩友美	看護学部	秋葵	
	優秀賞	岡本 智之	国際関係学部	雪月花	
	佳作	櫻井優紀子	薬学部	朝冷え	
	佳作	西村 友里	薬食生命科学総合学府	十月	
	佳作	江田 康拓	薬食生命科学総合学府	夏の沖縄	
	佳作	佐藤 雄飛	薬学部	静岡県立大学	
	努力賞	望月 俊樹	薬食生命科学総合学府	夕立	
	努力賞	松井 幹奈	薬食生命科学総合学府	黄金色の海	
	イラスト	佳作	橋本 彩華	経営情報学部	とおりあめ
		佳作	都築 奈恵	経営情報学部	おとぎの国へ
努力賞		橋本 有佳	薬学部	ゼンタングル/琥珀	
写真	努力賞	水野 春花	薬学部	帰り道	
	努力賞	中野 達基	薬食生命科学総合学府	高台からの夕焼け	
	努力賞	陳 曦	国際関係学研究科	金色年華	
	努力賞	孫 江明	国際関係学研究科	「春」を満喫	
	努力賞	宇久美奈子	薬学部	リフレッシュ	
努力賞	坂本 実咲	国際関係学部	夏と毛玉		

第3回剣祭イメージキャラクターの募集

来年度の剣祭の顔となる第3回剣祭イメージキャラクターの募集を行いました。21件の応募があり、剣祭来場者の人気投票（投票総数182票）も加味して審査した結果、最優秀賞は該当がなく、優秀賞2件と佳作2件が選ばれました。

部門	賞	名前	所属	作品名
剣祭キャラクター	優秀賞	中野 達基	薬食生命科学総合学府	つくま
	優秀賞	石井 裕大	薬食生命科学総合学府	草薙ケン
	佳作	西山 菜月	国際関係学部	ケン
	佳作	塚田 野衣	国際関係学部	ツルギワグマ

皆様からの基金へのご協力、御礼申し上げます。

(敬称略：平成26年3月～平成26年12月分で寄付の順) 大学後援会、西野勝明（経営情報学部）、山田静雄（薬食研究推進センター）、創星会（食品栄養科学部同窓会）、松浦博（経営情報学部）、野口修治（薬学部）

経営情報学部

岩崎ゼミナール (マーケティング研究室)

岩崎 邦彦 教授
(地域に関連するマーケティング問題の研究)

■学部生17名 大学院生2名

<http://ai.u-shizuoka-ken.ac.jp/~iwasaki/>



取材当日は、行政や農業法人とのプロジェクト成果報告会に向けて準備の大詰め。複数の案件を抱える中でも、ゼミの雰囲気は活気に溢れている

マーケティングを通して地域を元気に

「マーケティング」というと、大企業が莫大な費用をかけて市場調査を行うようなイメージがありますが、岩崎ゼミの研究は、地域の課題解決と経済発展に貢献するというもの。研究室に企業や行政から日々相談が舞い込む状況は、それだけ地域がマーケティング的な課題を抱えているという現れでもあります。

「静岡県の99.7%が中小企業。地域という“面”の活性化には、それを形成する農業、商業、観光業といった“点”である中小企業が元気でなければならない。今は、ニーズの多様化や質の追求といった“個性”が勝負という時代の追い風もある。小ささをいかに強みと力に変えるかが、私たちのマーケティング研究です」と岩崎教授は述べます。

岩崎教授は緑茶のマーケティング研究を通して、「消費者は茶がもたらす『やすらぎ』や『リラックス効果』に對価を払っている

という緑茶の新たな価値を茶業界に提言してきました。「『ものづくり』と『ブランドづくり』は同じではありません。地域が持つ資源が選ばれるためには何が必要で、どう発信するのか。マーケティング的にはまだまだ課題があるといえます。」

今やフルーツマートのトップブランドとなった「アメルマト」、県産イチゴの15年ぶりの新品種として今季発表された「きらび香」などの農産物のマーケティングのほかにも、市や法人協会と連携し、学生が、中小小売店や農業法人の経営コンサルティングを行う「大学生によるお店コンサルティング事業」や「アグリビジネスコンサルティング」は年々評価を上げ、ゼミの看板的な活動として定着しつつあります。「地域課題を受信し、研究室の研究成果を地域に発信し、情報のキャッチボールをすることが我々研究室の存在意義だと感じています。」

世代や立場を超えたつながりが生む成果

岩崎ゼミでは、複数のプロジェクトが同時進行する中、あるプロジェクトは3・4年生合同、別のプロジェクトは3年生と4年生を対向させるなど、チーム編成がそれぞれ異なります。「同学年の連携以上に、縦のつながりを重視しています。同窓会も毎年必ず開きますし、卒業生にゼミに参加してもらうこともあります。」

こうした考えは学生の積極性を育み、地域課題に取り組む方々との関係にも良い影響をもたらしています。「大学生によるお店コンサルティング事業」に参加した経営者からは、学生の調査報告や提案を経営に取り入れたいとの声が寄せられました。「私自身、学生に

は一方的に教えるというより、彼らと同じ方向を向いて共に学んでいるつもり。学生のアイデアから学ぶことは多く、企業の方々も同じ気持ちだと思います。」

金融機関、製造業、行政、農業組合、メディアなど、ゼミの卒業生は県内外に活躍の場を広げてきました。「マーケティングはどの分野にも応用できる学問であり、課題は私たちの身の回りに溢れています。しかし、それに関心を持たなければ忘れてしまうもの。社会現象に疑問を持ち、問いを立てて学ぶこと、相手の立場に立って考えることを学生には大事にして欲しいと思っています。」

学生の声

“人間的に全てが成長した”

4年 渡井 真優子さん



チームでの研究活動の他に卒業研究では、プチギフト等の贈答品を購入する人の属性と心理特性について研究してきました。

私は1年生のときに受けた岩崎先生の授業で、先生の相手の立場に立ったものの考え方に非常に共感を覚えました。先生は私たち学生の意見や発表にも常に新鮮な驚きや反応を示してくれます。先輩方からはプレゼン能力、社会人との関わりからは人脈や行動力を得て、ゼミで自分自身が成長したことを感じますし、就職活動のOBOG訪問等にも発揮されたと思います。春からは地元の信用金庫に勤めますが、組織の中で幅広い仕事ができるようになるというビジョンがあるので、調査・分析といった地道な活動から、ゼミ長としてみんなをまとめた経験まで全てを生かしたいと思っています。

“プレゼン力や外部評価がゼミのブランド力”

3年 望月 秀哉さん



私は3・4年生合同でプロジェクトチームを組む魅力を感じ、このゼミを選びました。合宿や大学祭などのイベントを通じて常に仲の良いゼミですが、そうした交流が、研究活動でも気兼ねなく意見を言い合えることに生きていると思います。プロジェクトが行き詰ることもありますが、いつも「楽しんでやってね」という岩崎先生の一言に前向きになることができます。このゼミではプレゼン能力が養われますし、外部の方から評価をいただけることは自信につながります。

文章やコピーライティングが好きなので、将来はそれらをマーケティングと組み合わせることで新しい価値を生み出せたらと考えています。

■「産・学・民・官」の連携を考えるつどい2014 産学連携推進本部 本部長 奥直人

10回目となる「産・学・民・官」の連携を考えるつどい2014」を平成26年11月21日に開催しました。

第1部「産学民官連携セミナー」では、木苗直秀学長、静岡県経済産業部部長のあいさつ、私からの「本学の産学民官連携活動の紹介」に続き、特別講演として、東京大学特任教授で(株)ファストラックイニシアティブ 代表取締役社長の木村廣道氏に『「日本の地域」が本気を出して、「世界の一員」となる日』と題して、ご講演いただきました。今後の成長産業と本学の関わりや、産学官連携の実証である川崎 COINS の事例を紹介いただき、将来を見据えた大局的な見地と産・官を巻き込んだ行動力に、大いに刺激を受けました。

第2部の「研究発表・交流会」では、教員等による78ブースで、日頃の研究内容のポスターを掲示し、教員が来場者に説明したり、試作品展示や試食品の提供、情報交換を行いました。研究内容を知る機会とあって、数多くの地域企業の方に来学いただきました。県の主要施策である静岡県新産業集積クラスターの紹介、公設試験研究機関、産業支援団体も出展していただき、本学教員と交流しました。

この機会を通して、産・学・民・官の連携による地域産業・地域社会への貢献のヒントが得られ、さらなる「知の発信」の重要性を再確認しました。学内外の多くの方にご参加・ご協力をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。



東京大学木村廣道先生によるセミナーの様子



第2部の「研究発表・交流会の様子」

■「みんなでつなぐ元気が出るドリームサイエンス 2014 in Shimizu」の参加

12月7日に「みんなでつなぐ元気が出るドリームサイエンス 2014 in Shimizu」が東海大学清水キャンパスで開催されました。会場には約2,560人の参加者が集まり、子どもが楽しめる科学体験の場として、大学や企業などブースの出展があり、本学からは、食品栄養科学部が『小さな生き物を観察してみよう』、『“安全”ってなんだろう?』というテーマでブースを出展しました。



薬剤師として、
県民の健康や安全な生活を
支える仕事をしています。



お名前 杉山 智啓さん

卒業学部 薬学部 薬学科
(2014年3月卒業)

勤務先 静岡県庁

Q1. どんなお仕事をされていますか?

静岡県の行政職として採用された薬剤師は主に薬事関連や環境関連の仕事を担当しています。私は環境の中でも大気汚染防止や水質汚濁防止などいわゆる公害関連の業務を担当し

ています。具体的には、事業所からの各種届出の受理を的確に行ったり、工場への立入検査を行って基準が守られているかを確認する仕事をしています。この仕事を通じて、生活環境を保全し、県民が安全で安心してよりよい暮らしができるようサポートしています。

Q2. 学生時代の経験で、今のお仕事に影響を与えたことはありますか?

アルバイトや、実務実習、研究室など大学生活で様々な人と触れ合う中で、多くの人と接点を持つような仕事につきたいと思い公務員となりました。周りの人と協力して仕事をする機会が多いため、大学生活で培ったコミュニケーション能力が大いに役立っていると思う場面が多々あり、そのおかげで仕事を円滑に進めることができます。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

優秀な友人が多く、お互いに切磋琢磨しながら学生生活を送れたことです。勉強を教えあったり、困ったことがあればすぐに相談ができるかけがえのない友人達と出会えました。現在は県内の病院等で薬剤師として活躍している友

人が多く、定期的に食事をしながら情報交換を行い、人の役に立つということを考える良い機会となっています。

Q4. 今後の目標について教えてください。

静岡県の職員は多くの幅広い仕事を行っています。6年間は研修期間となり異動をしながら様々な仕事をするようになります。新しい環境、新しい仕事内容に少しでも早く慣れ、県民のよりよい生活に役に立てるように日々努力していきたいと考えています。

Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

社会人になると、周りの人たちと連携、協力して行う仕事が多くなるため、コミュニケーション能力が重要であると改めて実感しました。部活やアルバイト、同級生などたくさんの人と触れ合って充実した学生生活を送ることは、自然とコミュニケーション能力が磨かれるので、社会人になって必ず役に立ってきます。友達を大切に充実した学生生活を送って欲しいと思います。

Q4. 今後の目標について教えてください。

現在の目標は自ら確立した合成法で薬を世に送り出すことです。しかしそのためには大学で学んだ専門分野である合成の知識や技術だけではあればよい訳ではありません。結晶形や設備、法律に関する事など、必要な知識はここには書ききれないほど広範囲にわたります。今後多くの経験をし、日々学んでいきたいと考えています。

Q5. 在学生にひとこと、メッセージをお願いします。

自由に使える時間が多い大学時代、なにかに打ち込んだ軌跡を作ってみてください。勉強、アルバイト、部活動や趣味など、なんでも良いです。胸を張って頑張ったと言えるような経験はきっと将来、みなさんにとっての財産となると思います。多くの経験を積み、今しかない大学生活をぜひ謳歌してくださいね。

学生時代に研究で得た
大きな達成感は、今も
モチベーションになっています。



お名前 朝比奈 彩さん

卒業学部 薬食生命科学総合学府 薬科学専攻
(2014年3月卒業)

勤務先 大塚製薬株式会社

Q1. どんなお仕事をされていますか?

医薬品の製造プロセス開発(商用製造するための研究)に携わっています。工業スケールの合成は安全かつ単純な操作で、誰がいつでも行っても厳しい品質規格を必ずクリアできる方法

でなければなりません。そのような合成法を確立することは非常に困難ですが、だからこそそれを作り上げた時の喜びはひとしおで、やりがいを感じています。

Q2. 学生時代の経験で、今のお仕事に影響を与えたことはありますか?

大学時代は天然物の全合成研究を行いました。失敗を重ね辛い思いもしましたが、全合成できた際には大きな達成感が待っていることを知りました。それは今の仕事のモチベーションにもつながっています。どんなに大変な時でも目の前のことばかりにとらわれず、長いスタンスで物事を考えられるようになったと思います。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか?

なんといいてもたくさんの素晴らしい先生方や志の高い仲間に出会えたことです。様々なフィールドに分かれていった仲間たちとは卒業後もたびたび連絡を取りあっており、よく旅行や食事に出かけています。その際に多くの情報交換をすることで視野が広がり、研究に対する意欲がより一層強まるように感じます。

受賞一覧

*各受賞の詳細については本学公式サイトのニュース&トピックスからご覧いただけます。

受賞者名	所属	受賞名	受賞年月
尾上 誠良	薬学部 教授	日本薬物動態学会平成 26 年度奨励賞	2014年9月
砂川 陽一	薬学部 助教	第 18 回日本心不全学会学術集会 YIA (ハートチーム部門) 優秀賞	2014年10月
鈴木 美希	薬学部 助教	第 4 回メタロミクス研究フォーラム Young Scientist Award 受賞	2014年11月
高橋 忠伸	薬学部 講師	公益財団法人 長寿科学振興財団 平成 26 年度長寿科学賞	2014年11月
小郷 尚久	薬学研究院 講師	第 32 回メディカルケミストリーシンポジウム 優秀賞	2014年11月
砂川 陽一	薬学部 助教	The 19th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy (ISCP) Young Investigator Award (YIA)	2014年11月

学生

受賞者名	所属	受賞名	受賞年月
藤原 朋宏	食品栄養科学部 4 年	将来、管理栄養士・栄養士を目指す学生が考える、やさしい介護食レシピコンテスト エクセレント賞	2014年8月
加藤 翔子 山岸 祐己	経営情報イノベーション研究科 修士課程 2 年 博士後期課程 1 年	FIT2014 第 13 回情報科学技術フォーラム 奨励賞	2014年9月
長澤 聖子	薬学部 6 年	日本薬学会環境・衛生部会フォーラム 2014 実行委員長賞	2014年9月
紅林 佑希	薬食生命科学総合学府 博士後期課程 2 年	第 13 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフォーラム 2014 優秀発表賞	2014年9月
諸星 晴香	薬学部 4 年	第 14 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 優秀演題賞	2014年10月
青木 肇 梶原 隆介 見瀬 僚平	薬食生命科学総合学府 博士課程前期 2 年	製剤機械技術学会 優秀ポスター賞	2014年10月
黒田 侑希	薬食生命科学総合学府 博士前期課程 1 年	日本農芸化学会中部支部 奨励賞	2014年10月
平井 央子	薬食生命科学総合学府 博士前期課程 1 年	第 11 回日本カテキン学会年次学術大会 優秀発表賞	2014年11月
服部 芳規	薬学部 6 年	第 87 回日本生化学会 若手優秀発表	2014年11月
井出 貴文 小野 裕美	薬食生命科学総合学府 博士課程前期 2 年 薬学部 5 年	第 45 回 中部化学関係学協会支部連合秋季大会 優秀発表賞	2014年11月
鈴木 秀敏 櫻井 涼賀	薬食生命科学総合学府 博士課程 3 年 博士前期課程 1 年	The 19th Annual Scientific Meeting of the International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy (ISCP) Young Investigator Award (YIA)	2014年11月
藤浪 未沙 大野 真澄	薬食生命科学総合学府 博士前期課程 2 年 食品栄養科学部 4 年	平成 26 年度日本食品科学工学会中部支部大会 優秀賞	2014年12月
藤原 朋宏 富永 菜月 川田久美子 仲山 まどか	食品栄養科学部 4 年 2 年 1 年 1 年	「和食給食コンテスト」(静岡県「ふじのくに和の食文化の祭典」実行委員会主催) 優秀賞 (藤原さん、富永さん) アイデア賞 (川田さん、仲山さん)	2014年12月

クラブ・サークル

受賞団体名	所属	受賞名	受賞年月
ジャクリング サークル五臓六腑	酒徳 航平 (薬学部 2 年)	浜松ヨーヨーコンテスト 2014 ビギナー部門 3 位	2014年9月
Pesca Peito (フットサルサークル)		アイデムカップ東海・北信越大会 優勝	2014年10月
静岡わかもの党		第9回マニフェスト大賞 優秀賞 <マニフェスト賞(市民)>	2014年10月
陸上競技部		第7回磐田市駅伝競争大会 6km磐田市外一般の部 優勝	2014年12月

新学長決定のお知らせ

木苗直秀学長の任期満了に伴い、学長選考会議は、平成 26 年 10 月 8 日、静岡県立大学及び静岡県立大学短期大学部の次期学長予定者として、鬼頭 宏氏を決定しました。任期は平成 27 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの 4 年間です。

鬼頭 宏(きとう ひろし)氏

〈略歴〉

- 昭和46年3月 慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了 経済学修士
- 昭和49年3月 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程 単位取得退学
- 昭和55年4月 上智大学経済学部経済学科 講師(同大学院経済学研究科 講師 兼任)
- 昭和57年4月 上智大学経済学部経済学科 助教授(同大学院経済学研究科 助教授 兼任)
- 平成元年4月 上智大学経済学部経済学科 教授(～平成24年3月)
(同大学院経済学研究科 教授 兼任(～平成17年3月))
- 平成13年4月 上智大学経済学部 経済学科長(～平成17年3月)
- 平成17年4月 上智大学大学院地球環境学研究科 教授(兼任、～平成24年3月)
- 平成19年4月 上智大学地球環境研究所 所長(～平成24年3月)
- 平成24年4月 上智大学経済学部 特別契約教授(～現在)



〈主な著書〉

- ・日本二千年の人口史(昭和58年2月:PHP研究所)
- ・人口から読む日本の歴史(平成12年5月:講談社)
- ・環境先進国 江戸(平成12年9月:吉川弘文館/平成14年4月:PHP研究所)
- ・文明としての江戸システム(平成14年6月:講談社)
- ・2100年、人口3分の1の日本(平成23年4月:メディアファクトリー)

〈主な国等の審議会等の委員歴〉

- ・国土審議会 特別委員(平成17年10月～21年5月)
- ・社会保障審議会臨時委員(人口部会委員:平成18年6月～20年6月、人口構造の変化に関する特別部会委員:平成18年11月～20年6月、人口部会委員:平成23年6月～25年6月)
- ・厚生労働科学研究費補助金 事前企画評価委員会及び中間・事後評価委員会委員(平成21年12月～25年11月)
- ・日本学術会議 連携会員(平成18年8月～現在)
- ・日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員(平成14年1月～15年9月、17年1月～18年12月)
- ・静岡県人口減少問題に関する有識者会議 座長(平成26年7月～現在)

教員人事

◆採用 平成27年1月1日付

出川 雅邦	地域連携推進本部(事務局教育研究推進部)	特任教授
-------	----------------------	------

平成27年2月1日付

保坂 卓臣	薬学部 薬学科	助教
-------	---------	----

◆昇任 平成26年12月1日付

三浦 進司	食品栄養科学部 栄養生命科学科	教授
桑野 稔子	食品栄養科学部 栄養生命科学科	教授

◆退職 平成27年2月28日付

金 承榮	食品栄養科学部	助教
------	---------	----

給与削減を財源とする地震対策事業

静岡県公立大学法人は、平成25年度に教職員及び役員の給与を削減し、それを財源とした地震対策事業を同年度から実施していますが、平成26年度に実施した事業の内容を紹介します。

なお、この取組については、県公立大学法人評価委員会の「平成25事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」の中で、「静岡県が行う地震津波対策と連携して、役員・教職員の給与削減を実施し、非常用食料の備蓄^注や防災用品の購入、ガラス飛散防止フィルムの施工を行うなど、大規模地震・災害に備えた対策を進めた。」と評価されました。

注) 非常用食料は、給与削減による予算ではなく、別途、大学の通常予算で購入・備蓄しました。

① 防災用品購入

・マンホールトイレ(7個)

災害時に使用するマンホール直結型のトイレ。学内にある下水直結のマンホールに設置可能であり、トイレ問題を解消する一助となります。

・防災用ウインドブレーカー(300着)

教員に配布しました。

・防災用テント(2張)

災害時にグラウンド・芝生園地等に設置します。



マンホールトイレ、防災用ウインドブレーカー (H26.11.12防災訓練にて)



防災用テント、放送設備等 (H26.11.12防災訓練にて)

② 可搬式放送設備購入(2セット)

災害時にグラウンド・芝生園地等に設置し、災害情報等を聞き取りやすくします。

電源供給のためのポータブル発電機(2台)も合わせて購入しました。

③ 電子掲示板設置

(谷田キャンパス13台、小鹿キャンパス3台。設置予定を含む。)

地震・災害等に関する情報を提供するため、はばたき棟、図書館等学内各所に設置しました。



電子掲示板

はばたきへのご感想をお寄せください

「広報誌はばたき」へのご感想・ご意見、今後取りあげてほしいテーマなどをお聞かせください。住所・氏名・電話番号を明記し、郵送もしくはEメールでお寄せください。いただいたご意見は今後の誌面づくりの参考とさせていただきます。

また、ご意見・ご感想の内容を広報誌に掲載させていただくことがあります。掲載を希望しない場合、匿名を希望する場合はその旨をご記入ください。

お問い合わせ先は巻末をご覧ください。

図書館だより



シリーズ 私の一冊の本

食品栄養科学部教授 新井 映子

紹介図書

『梅干と日本刀: 日本人の知恵と独創の歴史』

著者名: 樋口 清之
● 出版社: 祥伝社 ● 請求記号: 361.42/H56
● ISBN: 9784-396-11369-8



先頃、本屋に平積みされている書籍の中で、思わずこの本に目が止まりました。私が大学生の頃(今から40年前です)に読んだ記憶があるからです。復刻版とのことでした。本のタイトルは覚えていましたが、内容は記憶にありません。調理科学を仕事にしているため、「梅干」という言葉に惹かれ、もう一度読み返してみようと思いました。

著者の樋口清之氏は、登呂遺跡発掘などにも従事した考古学者で、日本の文化がいかに諸外国に類を見ない優れたものであるかを、事例を挙げながら解説しています。食生活に関してみると、科学的な誤りや、分析技術の進歩で解釈が異なってきた箇所も一部ありますが、それらを差し引いても、私には目から鱗の連続でした。

米を主食とする日本では、米飯とともに餅もよく食べます。食文化的な見地からみると、餅はハレの食べ物で、現代でも年中行事や通過儀礼に欠かせない米の加工品です。しかし、著者は餅について、「ご飯のままですぐ発酵するから、米の粘性性を利用して搗いて固め、表面だけを空気にさらす。そのときに空気に直接触れないように、今日では粉をまぶすが、その結果、餅は携行食という意味だけでなく、保存食としても完成したのである。」とし、このような加工法は他国にはないと述べています。この文章から、恥づかしながら私は、糊化した澱粉の保存法として餅が考案されたことを、初めて知りました。

そのほかにも、飢饉に備えた食料として彼岸花が移植されたことや、五節句に摂るべき食品(人日に七草粥、上巳に杏仁湯、端午に菖蒲の根、七夕にほおずきの根および重陽に菊の花を各々煎じた湯)の妥当性など、多くのことを学びました。そして、ユネスコの世界無形文化遺産に登録された「和食」とは、単に食べ物を指すのではなく、日本人の食に対するたゆまぬ試行錯誤の成果であることを、改めて認識しました。

本書は食生活のみならず、衣服や住居や言語など、記述は多岐に亘ります。皆さんも、日本文化について考えてみたくなった時、本書を参考書として読んでみてはいかがでしょうか。

静岡県立大学・短期大学部機関リポジトリ



静岡県立大学・短期大学部機関リポジトリ

本学の紀要や学位論文などの学術研究成果を蓄積し発信するために平成25年2月から一般公開してきた「静岡県立大学・短期大学部機関リポジトリ」について、平成27年1月20日に国立情報学研究所の「学術機関リポジトリデータベース」へのデータ提供申請をいたしました。これにより、国立情報学研究所の学術機関リポジトリポータル「JAIRO(ジャイロ)」から本学の機関リポジトリのデータが検索できるようになるほか、論文や図書・雑誌などの学術情報を検索できる国立情報学研究所のデータベースサービス「CiNii(サイニイ)」とのデータ連携により、「CiNii」の検索結果からダイレクトで機関リポジトリ収録論文の本文を閲覧できるようになります。

また、インターネット公表の必要のある、平成25年度以降に学位を授与された博士論文について、本学では機関リポジトリにより公表しています。

機関リポジトリで公表した博士論文は、「学術機関リポジトリデータベース」を通して国立国会図書館の自動収集及び送信用システムで自動的に収集され、これまで印刷公表されてきた博士論文同様に国立国会図書館内において「国立国会図書館デジタルコレクション(博士論文)」のサイトから閲覧できるようになります。

このように、機関リポジトリと様々なデータベースとのデータ連携によって、本学の学術研究成果の更なる利活用が期待されます。附属図書館では今後も機関リポジトリの充実に努めていきたいと考えています。



CiNii Articles(国立情報学研究所)



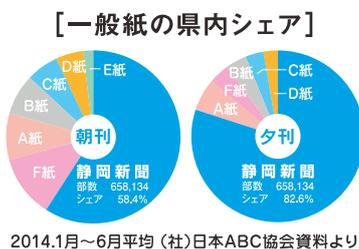
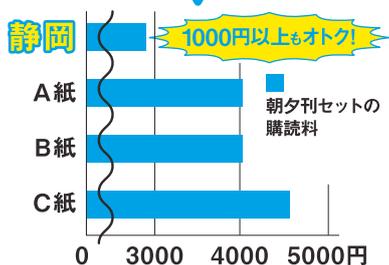
大学生も
えらんで
よかった!

えらばれて、おかげさまで県内No.1! ☆月決め購読料☆ 朝・夕刊セット 2900円 (税込)

2900円(朝・夕刊
セット)は
県内No.1!

発行部数は
県内No.1!

まずは無料の1週間試し読みを!
お申し込みは



http://www.at-s.com

静岡新聞 検索

やさしく よみいい

0120-89-4311

※購読料改定が実施された場合、新規購読料とさせていただきます
※お申込からお届けまでお時間がかかることがありますので、あらかじめご了承ください

静岡新聞社 読者プロモーション局
Tel.054-284-8938 Fax.054-284-8969

イベントのご案内

平成26年度学位記授与式(卒業式・修了式)について

平成26年度の学位記授与式(卒業式・修了式)を次の日程で開催いたします。
なお、保護者席をご用意しておりますので、ぜひご列席ください。

- 開催日 平成27年3月20日(金)
 - 会場 グランシップ大ホール 海
静岡市駿河区池田79-4
(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)
 - 開場 午前9時10分
 - 着席 午前9時40分
 - 開式 午前10時
- 問い合わせ先 TEL 054-264-5009(学生室)

3/17 TUE 「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」キックオフセミナー

とき/13時00分~16時30分
会場/谷田キャンパス(静岡市駿河区)

3/18 WED 看護学部新棟オープニングセレモニー

とき/13時30分~
会場/小鹿キャンパス(静岡市駿河区)

5/29 FRI 木苗学長退任記念祝賀会

とき/18時30分~20時30分
会場/ホテルセンチュリー静岡(静岡市駿河区)

広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。